

### 建物概要

建物名称	日産自動車株式会社 グローバル本社
建物用途	事務所 工場
建設地	横浜市西区高島1丁目1番21号
気候区分	地域区分
地域・地区	商業地域、防火地域
竣工年	2009年4月 竣工
敷地面積	10,000 m <sup>2</sup>
建築面積	9,009 m <sup>2</sup>
延床面積	92,330 m <sup>2</sup>
階数	地上22階地下2階
構造	鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造
平均居住人員	2,650 人
年間使用時間	4,000 時間/年



### 建築物の総合的な環境性能評価結果

注1

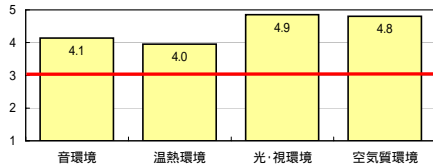
#### -1 建築物の環境品質・性能と環境負荷低減性(評価分野毎)

##### Q 建築物の環境品質・性能 (建築物の居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

スコア(評価点):  $S_Q = 4.2$   $SQ = 0.39 * SQ1 + 0.3 * SQ2 + 0.31 * SQ3$

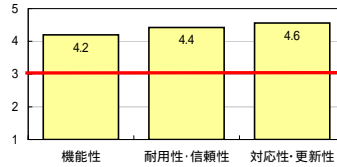
##### Q-1 室内環境

スコア(評価点):  $S_{Q1} = 4.4$



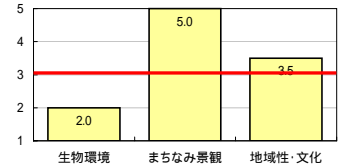
##### Q-2 サービス性能

スコア(評価点):  $S_{Q2} = 4.4$



##### Q-3 室外環境(敷地内)

スコア(評価点):  $S_{Q3} = 3.7$

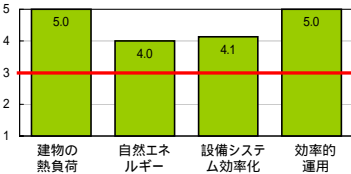


##### LR 建築物の環境負荷低減性 (建築物の環境負荷を低減させる性能評価)

スコア(評価点):  $S_{LR} = 4.5$   $SLR = 0.4 * SLR1 + 0.3 * SLR2 + 0.3 * SLR3$

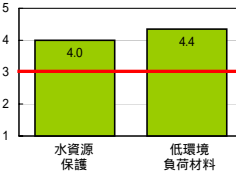
##### LR-1 エネルギー

スコア(評価点):  $S_{LR1} = 4.5$



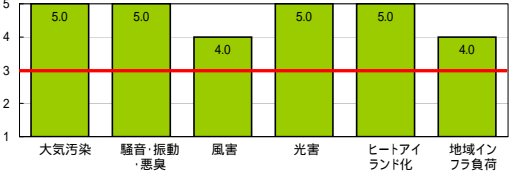
##### LR-2 資源・マテリアル

スコア(評価点):  $S_{LR2} = 4.3$



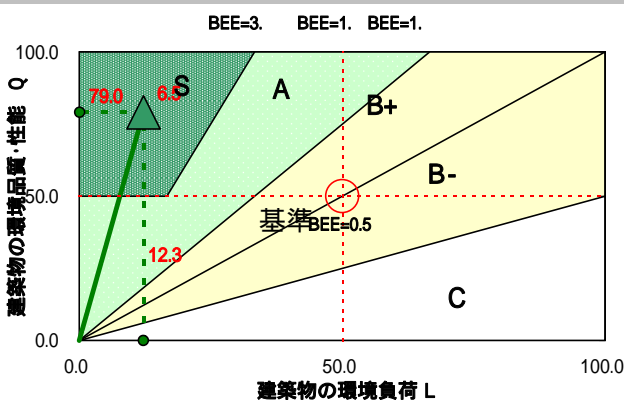
##### LR-3 敷地外環境

スコア(評価点):  $S_{LR3} = 4.7$

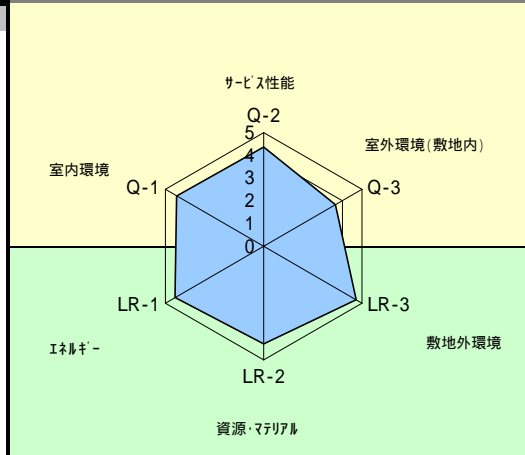


#### -2 建築物の環境性能効率(BEE: Building Environmental Efficiency)

##### BEEによる建築物のサステナビリティランキング



##### レーダーチャート



$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質・性能 } Q}{\text{建築物の環境負荷 } L}$$

$$= \frac{25 * (S_Q - 1)}{25 * (5 - S_{LR})} = \frac{79}{12} = 6.5$$

$$Q = 25 * (S_Q - 1)$$

$$L = 25 * (5 - S_{LR})$$

\* $S_Q$ : Score of Q category

$SQ = 0.39 * SQ1 + 0.3 * SQ2 + 0.31 * SQ3$

\* $S_{LR}$ : Score of LR category

$SLR = 0.4 * SLR1 + 0.3 * SLR2 + 0.3 * SLR3$

備考 注1: 敷地選定に関わる評価は対象外、当該敷地に建てられる標準的な建築物の得点が3点。NAは評価対象外とした項目を示す。

## 横浜市重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号( )を示し記述してください。

地球温暖化対策  global warming

## 室内環境対策( 室温制御 / 昼光利用・制御) / 室外環境(敷地内)対策( 生物環境の保全と創出)

高性能な外皮によって外乱の進入を防ぎ、基準階の制御単位を細分化したアンダーフロア空調にて室温制御を行っている。

2フロアに1つのスキップボイドと建物中央に太陽光集光装置を兼ね備えた中央ボイドによる昼光利用と外装の水平ルーバーによる昼光制御を実施している。

1階外構に連続した高生垣を設置し、道路際の緑化景観を演出、5階の低層部屋上に屋上緑化(約1000㎡)を行っている。

## エネルギー対策( 建物の熱負荷抑制 / 自然エネルギー利用 / 設備システムの高効率化 / 効率的運用)

外装の水平ルーバーの設置とLow - ガラスの採用による建物熱負荷抑制を実施している。

上記の自然採光 + 外装南北面の自然換気口と建物中央ボイドを利用した自然換気を実施している。

変流量・変風量制御をはじめとした各種インバータ制御を導入している。 BEMS導入によるエネルギー管理とコミッションングを実施する。

## 資源・マテリアル対策( 水資源保護 / 低環境負荷材利用)

節水型便器の採用、雨水利用・中水利用を導入している。

再生骨材、ダンボールダクト、OAフロアの採用とハロン消火の不採用を実施している

## 敷地外環境対策( 温熱環境悪化の改善: 敷地外風通しへの配慮、外構被覆材材への配慮、外皮材料への配慮、人工排熱量低減等の取組)

DHC受入による人工排熱量を低減し、外部風環境予測に基づく建物配置計画を実施している。

また、5階低層部屋上緑化により温熱環境の改善に貢献している

ヒートアイランド対策  heat island

## 室外環境(敷地内)対策( / 敷地内温熱環境の向上: 風通しの促進、緑地・水面等の確保、建築緑化、人工排熱場所等への配慮)

DHC受入による人工排熱量を低減し、外部風環境予測に基づく建物配置計画を実施している。

また、5階低層部屋上緑化と池の設置により温熱環境の改善に貢献している

## 敷地外環境対策( )

DHC受入による人工排熱量を低減し、外部風環境予測に基づく建物配置計画を実施している。

また、5階低層部屋上緑化により温熱環境の改善に貢献している

長寿命化  long life-cycling

## 耐用性・信頼性( 耐震・免震 / 部品・部材の耐用年数向上)

超高層建築物構造方法の国土交通省大臣認定を取得。制震装置を設置している

外装のアルミ積層複合パネル、アルミCWフッ素樹脂焼付塗装の採用と給水SUS配管、排水DVLP配管を採用している。

## 対応性・更新性( 空間のゆとり / 荷重のゆとり / 設備の更新性)

事務室基準階の階高 = 4.2m、天井高さ = 3.0mにて計画している。基準階の南北にスキップボイド(吹き抜け)を設けている。

基準階事務室の荷重4900N/㎡にて計画している。

将来更新スペースの確保とOAフロア200mmとケーブルラックの採用により配線ルートを確保している。

まちなみ・景観への配慮  townscape

## 室外環境(敷地内)対策( / まちなみ・景観への配慮: 周辺環境に応じた配置・高さ・形状・色彩等の工夫、周辺住民の意見の反映 / 地域性への配慮) / 街づくり協議会等地域特性への対応

横浜みなとみらい中央地区、地区計画に定められた都市軸と応答する配置計画、建物構成を行い、周辺地域と調和したまちづくりを行っている。

建物高さを100mに抑えることにより、周辺環境(日影や風等)に配慮した計画としている。(対象街区の法的な許容最高高さは200m)

風を孕んで「可能性という大海に漕ぎ出している帆船」のイメージをもつデザインと、外装は、明るい色を基調とし、周辺と調和した景観を形成している。

低層部が高層部よりも張り出していることで、高層部からの吹き下ろしの風は低層屋上ではねられ、道路面への影響は軽減される計画としている。

ペDESTリアンデッキが、日産の敷地を貫通するという敷地の特徴を最大限に生かし、みなとみらい121地区のゲート空間として、品格とにぎわいのある

計画としている。帷子川沿いの水際線プロムナードに面して、デッキを配置し、デッキに面してギャラリーやカフェを設置し、人々が自由にプロムナードから

入ることができる一体的な水際空間を形成している。

みなとみらい大通り側には、連続した生垣(約80m)を設置し、道路際の緑化景観を演出している。5階の低層部屋上に屋上緑化(約1000㎡)を設置している。

横浜みなとみらい121まちづくり協議会に入会し、地区計画のもとで、協議を行いながら周辺地域と調和したまちづくりを行っている。